

第2部会 第1回～第3回部会の議論概要と積み残しの議論

資料
大田区基本構想審議会第2専門部会
平成19年12月4日

1 誰もが元気でいきいきと暮らせるまちとは、どのようなものか

	大田区の課題・ポテンシャル等に関する意見	今後の方向性に関する意見	積み残しの議論とその理由
区民の健康をどう支えるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症併発患者・重度障がい児等の受け入れ先の不足 ・ 分娩可能な産科の不足 ・ 大学病院の待ち時間の長さ ・ 定年等に伴う医療情報の分断 ・ 医療分野における区の役割の不透明性 ・ 東邦大学大森病院を中核とする地域医療ネットワーク活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「すべての人が必要なときに十分な医療サービスを受けられる」ことを前提とした医療体制の構築 ・ 健康ですみよい大田区 ・ 医療分野における区の役割の明確化 ・ 地域における医療関連機関の連携とコーディネート機能の強化 ・ 予防医療の強化 ・ 医療情報へのアクセス向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療分野における区の役割 (第3回審議会における指摘) ・ 食育 ・ 羽田国際化に伴う感染症対策 ・ たばこの規制 (作業部会からの指摘)
高齢者が安心して暮らしていくための方策とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅を望む高齢者に対する在宅介護サービスの確保不安 ・ 介護家庭における家族の負担の重さ、老人虐待 ・ 商店街等における車の進入による歩行不安 ・ 定年後、時間をもてあます高齢者 ・ 従来の「高齢者像」と実態の乖離 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅介護に対するサービスの充実や家族サポートの強化 ・ 安心して歩けるまちづくり(バリアフリー化および商店街等における自動車の進入制限) ・ 虐待防止、見守り ・ 高齢者の経験および希望を地域活動に活かす仕組みづくり ・ 高齢者の実態とニーズに即した行政サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリーのまちづくり (第1部会からの要望：ハードの視点、ソフトの視点)
障がい者が自立して暮らしていくための方策とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労、家族をもつといった普通の暮らしの実現しにくさ ・ 施設入居者に関する外出時間の制約 ・ 精神障がい者の増加と回復後の就労の難しさ ・ 防災弱者としての障がい者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の社会参加と自立を支える仕組みづくり ・ 就労の促進 ・ メンタル・ケアの強化 ・ 高齢者も含めた防災弱者を支援する仕組みづくり ・ 障がい被害者の存在があたりまえになる学校、社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリーのまちづくり (第1部会からの要望：ハードの視点、ソフトの視点) ・ 重度障がい者福祉 ・ 障がい者の人権 ・ 障がい者雇用の促進 (作業部会からの指摘) ・ 災害弱者支援 (第3部会からの要望：防災対策)

2 子育てしやすいまち、未来を担う子どもたちの健やかなる成長を支えるまちとは、どのようなものか

	大田区の課題・ポテンシャル等に関する意見	今後の方向性に関する意見	積み残しの議論とその理由
子育てしやすいまち・地域の姿とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の不足感と多様なニーズ反映の難しさ ・ 保育園民営化に伴う質の低下に対する懸念 ・ 学童保育の定員オーバー ・ 多様な地域活動に動員される町会、PTA の疲弊 ・ 晩婚化と子どもを持つ環境の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを守り・育てる環境の形成 ・ 子育て相談・情報提供の充実 ・ 現在の保育ニーズに合致したサービスの強化 ・ 地域活動の主体間の連携・コーディネート機能の導入による効率化 ・ 児童虐待防止の強化 ・ 地域力を活かした児童館 ・ 子どもをもてる環境づくりへの配慮（不妊治療、ワークライフバランス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の再教育の必要性と担い手 ・ 家庭、学校、地域のバランスのとれた役割分担（第3回審議会における指摘） ・ 中小企業におけるワークライフバランス（第3回審議会における指摘）
学校教育のめざすべき方向性とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員に関する業務範囲の拡大と仕事量の増大 ・ PTA における共働き世帯の増加と負担増大 ・ 家庭教育と学校教育の混同および家庭の教育力の低下 ・ 区内における地域特性と各地域が抱える問題のばらつき ・ 普通学校ですごす障がい児童に対するサポート人材の確保難 ・ 「ゆとりと個性」にかわる理念の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が本来業務に専念できる環境の形成（補助人員増等） ・ ボランティアベースの補助人員を集める仕組みづくり ・ 専門性を持ったコーディネーターの配置 ・ 外国人の子ども、保護者へのサポート ・ 障がい児が普通に学べる学校 ・ 地域とのかかわりに学校施設を活用 ・ 学校図書館への司書の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験を通じた国際化への対応 ・ 先生と地域のコミュニケーション促進 ・ 企業と連携した環境教育の導入 ・ インターンシップの意義の見直し ・ 学校図書館への司書の配置に関する検討（第3回審議会における指摘） ・ 確かな学力を身につける（作業部会からの指摘）

3 生涯にわたり学習し、地域に生きがいと居場所を持てるまちとは、どのようなものか

	大田区の課題・ポテンシャル等に関する意見	今後の方向性に関する意見	積み残しの議論とその理由
	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな立場（外国人、障がい者）、ライフステージ（高齢者、中高生、育児中の女性）にある人に沿う生涯学習の環境を提案することが必要 ・ 成果の活かし方としてボランティアの比重が高い ・ 生涯学習の議論は主体に偏っている。サービス提供者、コーディネーターに関する議論が必要 ・ 施設の満足度を高めるのはソフトの充実 ・ 施設運営、活動の担い手の育成には時間がかかる ・ 行政はいかにかわるべきか。施設の充実、人材育成については行政の役割が重要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な区民に配慮した学習機会の提供 ・ 「学びの喜び」、「得たものの社会還元」、「仲間づくり」を支えるインフラづくり ・ 主体的な学習的をサポートする行政の役割の再検討 ・ 学習拠点の運営や学習機会に係わるコーディネート機能とそれを担う人材・組織の育成。 ・ 地域活動への参加を容易にする仕組みづくり ・ 使いたくなる施設づくり（ソフトの充実）と公的施設の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史・文化への関心向上 ・ 生涯学習の成果活用（第3部会からの要望：地域の「宝」としての文化・歴史の維持） ・ 芸術・文化系人材の育成（第1部会からの要望：教育の果たす役割）